

伊陸夢プランだより

第20号
令和5年3月23日発行
伊陸地区コミュニティ協議会

「伊陸夢プラン」の実行に向けて

伊陸地区コミュニティ協議会 会長 山本 達也
伊陸夢プラン支援協議会 会長 西川 義彦

少しずつ暖かくなり春らしさを感じられる頃となりました。年度末の慌ただしさの中においても、心に余裕をもって過ごして参りたいものです。3月13日からは、マスク着用のルールが緩和され、3月17日には小学校でマスク着用なしの卒業式が挙行されました。様々な事が、少しずつ前に向かって動き始めているように感じます。「伊陸夢プラン」においても、活動項目の実現に向け、新年度を前に決意を新たにしている所です。引き続き、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、「伊陸夢プラン」の活動項目「防災・安全」の取組方法の一つ「自主防災組織を作る」の実現を目指して、今年度の各自治会長様へ、自治会総会での「防災の研修会」開催のお願いをして参りました。自治会長の皆さまには大変お世話になりました。お礼申し上げます。

「防災研修会」では、柳井市危機管理課 河村さん（柳井地区広域消防組合から派遣）が、消防隊員という自身の体験を踏まえ、災害時の対応や災害に対する備え、地域ぐるみで住民や地域を守ることにについて、具体的にお話されました。また、自治会の航空写真地図によるハザードマップを用意され、土砂災害やがけ崩れの危険についても説明をされ、自宅にどのような災害が起り得るのかよく分かりました。

「自主防災組織を作りましょう。」と言われると、とても大変な作業で更なる負担が増えると思われがちです。しかし、多くの自治会で、年に数回自治会内の草刈りや溝掃除、川の清掃などが行われていたり、何かあった時の連絡方法も昔からの慣習ができていたりします。これらは既に、自治会で防災の組織作りができていているという事が分かりました。これまで自治会で行われてきたことを図式化し、自治会の皆さんで共有するだけでも安心・安全な自治会へ一歩近づきます。

災害時、自治会内の見回りや、声掛けをされていていらっしゃる自治会長さんや班長さんは多いようです。災害時の声掛けなどの仕組みづくりが出来ていれば、誰が自治会長になっても突然の事態に困ることなく行動できると言えます。

河村さんは、「避難する場所は、必ずしも避難所である必要はありません。

状況によっては、避難場所に移動する事の方が危険な事もあります。自宅で避難することや、ご近所で安全なお宅に避難することも方法の一つです。」と言われました。

自治会内で各自の避難場所情報の共有ができていだけでも、救助時の二次災害のリスクが下がるのです。

「誰かに何かあれば人は必ず助けます。」



人には、必ず助け合おうという力があるのです。そうやって命は繋がれていくのです。」と話されました。

そして自身の体験から、「ほんの些細な事でも準備出来ていれば、助かる命はたくさんあります。自分が助かれば、家族を助ける事ができます。家族が助かれば、近所の人を助ける事ができます。災害によってなくなる命を一つでも多く減らしたい。」と言われたことが心に残りました。

「自主防災組織」とは・・・

「自主防災」＝「自手防災」＝「自守防災」
自らが防災の主役になり、自らの手で、自らの命や地域を守る

【防災研修会の様子】



※「防災研修会」を開催したい自治会がありましたら、出張所までご連絡ください。